



下和泉地区での販売初日の様子

「以前は歩いて近所のスーパーまで買い物に行けたけれど、高齢になって難しくなった」と。そんな声が泉区内の各地で増え、ケアアラザや泉区社協にも

住民の高齢化による買い物の困難さを解消しようと、泉区社会福祉協議会や地元自治会などの要望により、スーパー「マルエツ」の移動販売が9月から始まった。関係者は「住民同士のコミュニケーションの場にもなれば」と期待を込めている。

泉区 自治会要望で移動販売

マルエツ、買い物困難の声受け

相談が寄せられるようになったという。区社協は約1年前から南区などで移動販売の実績のあったマルエツに相談。要望を寄せた地元自治会と話し合った末、9月から移動販売車の巡回が始まった。

マルエツはインターネット販売も展開しているが、同社の担当者は「やはり商品を手に取って見たいというニーズは大きい」という。また、移動販売車の巡回が住民の外出機会創出につながる

り、健康づくりや見守りの場、コミュニケーションの場となることも重視しているという。

実店舗の閉店も 泉区の下和泉地区では6月、地域を62年間支えてきたユニコープ和泉店が来月20日に閉店することが発表された。下和泉住宅自治会の前原康博会長は「この住宅地を開発したのもユニコープ。シボル的存在で、ここに店舗があるから移り住んだ人も多い」と明かす。不安を抱えた住民の声を受け、前原会長が区社協に相談したことで同地区での販売も実現した。



「高山坂」のサインを説明する和田さん（右端）

神奈川区と保土ヶ谷区にまたがる羽沢横浜国大駅周辺のまちづくりの一環として、住民らが道や坂などに愛称を付けている。その愛称を記したサイン看板が10月18日に設置された。

神奈川区 羽沢地区

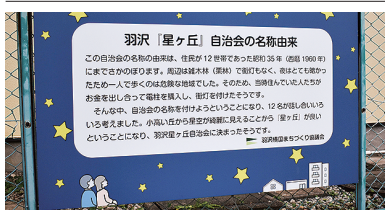
道・坂に愛称で親しみ

住民がサイン看板設置

同エリアでは2019年の羽沢横浜国大駅開業を機に、地域に愛着を持って暮らせるように、羽沢地区と保土ヶ谷区・常盤台地区の自治会町内会、横浜国立大学などで構成される羽沢横浜国大まちづくり協議会が発足。20年にはアンケートをもとに道や坂の名称を決め、今年3月には指針となる「まちづくりプラン」が横浜市から認定を受けた。

駅開業契機に 同エリアでは2019年の羽沢横浜国大駅開業を機に、地域に愛着を持って暮らせるように、羽沢地区と保土ヶ谷区・常盤台地区の自治会町内会、横浜国立大学などで構成される羽沢横浜国大まちづくり協議会が発足。20年にはアンケートをもとに道や坂の名称を決め、今年3月には指針となる「まちづくりプラン」が横浜市から認定を受けた。

歩いて世代交流 道中では羽沢南町内会前会長の和田勝己さんが「まわりの先生」として「シクラメン通り」や「大丸坂」などの通りや坂の名前の由来を説明。イベント運営を担当した



地域の歴史を紹介する看板も

南区 外国人住民へ生活説明会

ごみルールなど紹介



説明を聞く外国人住民

マレーシアから

南区で生活している転入間もない外国人住民に日本のルールやマナーなどを知らせてもらう「生活ガイダンス」が10月13日に南区浦舟町の「みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ」で行われた。南区独自の取り組みで、約50人の参加者はこみみ出し方や交通ルール、自治会町内会の仕組みなどを学んだ。

来日して1年の男性は、「ごみの分別方法が理解できた」と感想を話した。区によると、ガイダンスに参加した3人から自治会町内会への加入意向が示されたという。

は中区（約1万9千人）が最も多く、鶴見区（約1万8千人）、南区（約1万4千人）と続く。各区で外国人住民向けに生活情報をまとめたリーフレットの配布や動画作成などを行っているが、南区役所によると、講座形式で生活全般の説明を行っているのは南区だけという。ガイダンスはこれまで、外国人住民が多い区役所周辺などの地区で開催していたが、今回は対象を区全体に広げた。日本語教室の生徒や介護施設で働くスタッフ、小学生の保護者向けにも実施しており、同ラウンジは「外国人と地域住民がともに円滑な日常生活を送れるようにしたい」としている。



園芸博開幕まで500日 地下鉄にラッピング車両

2027年に行われる「GREEN×EXPO 2027」（国際園芸博覧会）の開幕まで11月4日で500日となった。園芸博へ向けた機運を盛り上げようと、市営地下鉄ブルーラインで10月28日から園芸博のラッピング列車の運行が始まっている。ラッピング列車の

スはこれまで、外国人住民が多い区役所周辺などの地区で開催していたが、今回は対象を区全体に広げた。日本語教室の生徒や介護施設で働くスタッフ、小学生の保護者向けにも実施しており、同ラウンジは「外国人と地域住民がともに円滑な日常生活を送れるようにしたい」としている。

中学PTA 町内会連携で県優良表彰

都筑区・川和と中川、工夫凝らす

PTA活動で優良な実績を上げていたとして、神奈川県教育委員会がこのほど、38校のPTAを「優良PTA」として表彰した。横浜市内からは6校が選ばれた。このうち、都筑区の2校は自治会町内会との連携を深めたことが評価された。

生徒の活動増える 川和中PTA（村上会長）は、役員以外に各クラスから選ばれた保護者が担当する委員会を廃止し、誰でも参加できるボランティア制に変更。さらに、自治会との連携を密にしたことで、保護者だけでなく、生徒たちの活動への参加も増え、多感な時期の子どものコミュニケーションの

出張スマホ教室 中川中学校保護者と教職員（会）（塚原陽会長）は、生徒らが地元町内会員にスマートフォンを使い方を教える「出張スマホ教室」を開くなど、地域との連携に力を入れている。

「生徒らに明るく、記憶に残るイベントを」と2020東京パラリンピックの閉会式で演奏を披露した西川悟平さんを招き、昨年3月にピアノコンサートを開催。また、標準服リユースでは、業者と連携することで保管・管理の負担をなくし、SDGsにも配慮した取り組みとして、保護者から好評だという。塚原会長は「先代のPTA役員の方々による努力、学校や地域の理解があつての受賞。素直にうれい」と語り、「昨今PTA解体のニュースが取り上げられることが増え、PTA存続の危機を感じている。中川中の取り組みを一つのモデルケースとして、周囲の学校にも発信していきたい」と未来を見据えた。

自治会町内会向けの防犯・防災グッズを製作

タウンニュース社では、自治会町内会向けにさまざまなグッズの製作を行っています。人気は「防災ボトル」。災害発生時に役立つホイッスルやLEDライトなど6点がボトルにまとまっています。ほかにも、玄関先に掲示して周辺の住民に無事を知らせる「安否確認タオル」やドアや窓に貼れる「防犯ステッカー」などを揃えています。いずれも、町内会名を入れられます。地域の担当者が迅速・丁寧に対応するサービスの良さも好評です。問い合わせはタウンニュース社営業推進部 ☎045-913-4141。

不審者警戒中

見つけ次第、110番通報します。
タウン自治会

防犯ステッカー

Tシャツなども